

黒毛和種去勢牛の若齢肥育技術

畜産試験場 肉用牛担当

国の「家畜改良増殖目標」では将来的に黒毛和種去勢牛の肥育期間短縮（肥育終了月齢の若齢化）を目指しているが、現状では発育・肉質の問題等から若齢肥育はなされていない状況にある。

そこで、既存技術での黒毛和種去勢牛の若齢肥育について検討したので紹介する。

【普及したい技術のポイント】

- ①生後8か月齢の肥育素牛を、肥育前期6か月間飼料中CP濃度を15%とし濃厚飼料からのTDN給与割合を平均75%として16か月間飼養し生後24か月齢で出荷すると、同条件で飼養した生後10～26か月齢の肥育牛に比べ飼料効率が良好で増体に勝るとともに肉質も大きな違いはない。
- ②既存技術でも国の家畜改良増殖目標の数値を達成することは可能であるが、生後24か月齢出荷では「きめ・しまり」で格落ちすることがあるため、増体の悪い牛は肥育期間を延長する必要がある。

【飼料摂取量】

若齢肥育区は飼料摂取量は通常肥育区より多く、1kg増体に要するTDN要求量も少ない（表1、2）。

表1 飼料摂取量（現物）

若齢区	濃厚飼料	3, 814.4 kg
	粗飼料	1, 389.6 kg
通常区	濃厚飼料	3, 762.4 kg
	粗飼料	1, 479.0 kg

表2 1kg増体に要するTDN要求量

	前期	中期	後期	全期間
若齢区	5.87	7.22	9.46	7.11
通常区	6.41	7.80	8.32	7.36

【増体成績】

若齢肥育区は肥育前・中期のDGが通常肥育区より良好で全期間増体量も大きい（表3）。

【枝肉成績】

枝肉成績は若齢区と通常区で大きな違いは見られなかったが、若齢区は「きめ・しまり」による等級格落ちが6頭中1頭に認められた（表4、5）。

表3 増体成績

区	項目	単位:kg				全期間増体
		開始時 0	肥育前期 (184日)	肥育中期 (183日)	肥育後期 (117日)	
若齢区 (n=6)	体重	269.7	458.3	648.8	739.7	470
	DG		1.03	1.04	0.78	0.97
通常区 (n=6)	体重	321.2	501.3	669.4	770.8	449.6
	DG		0.98	0.92	0.87	0.93

表4 枝肉成績

	単位:kg、cm ² 、cm								
	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMS.No	BCS.No	しまり	きめ
若齢区	464.9	51.5	6.8	3.3	71.9	4.5	3.2	3.3	3.7
通常区	481.3	52.4	7.2	3.1	72.2	4.8	3.2	3.6	4.0

表5 若齢区の格付個表(抜粋)

	等級	BMS.NO	脂肪交雑等級	しまり	きめ	等級	枝肉重量
1号	B-3	4	3	3	4	3	467.0
2号	A-3	5	4	3	3	3	412.1
3号	A-4	6	4	4	4	4	440.8
4号	A-3	4	3	3	4	3	520.4
5号	A-3	4	3	3	3	3	454.8
6号	B-3	4	3	4	4	4	494.1

表6 去勢肥育牛の能力に関する目標数値

	品 種	肥育開始時		肥育終了時		枝肉重量	1日平均 増体量	(参考) 肉質等級
		月 齢	体 重	月 齢	体 重			
現 在 目 標 (27年度)	黒毛和種	か月	kg	か月	kg	kg	kg	
		9.5	290	30	695	440	0.65	3.5
		8.0	240	24-26	675-725	430-460	0.90	3-4